「しぞ～か防災かるた」の開発

Development of “Shizo-ka bousai karuta”

○八木 宏晃[1]，小野寺 郷子[2]，藤井 直之[3]，林 能成[4]，美澤 綾子[5]
Hiroaki YAGI[1] ,Satoko ONODERA[2] ,Naoyuki FUJII[3], Yoshinari HAYASHI[4] and Ayako MISAWA[5]

[1] 岩手県沿岸広域振興局土木部河川港湾課（静岡県から派遣）
Department of Prefectural Land Development Coastal Region Development Bureau,Iwate Prefecture Government (On leave from Shizuoka Prefecture Government)
[2] 会議ファシリテーター普及協会
Meeting Facilitators Association
[3] 静岡大学防災総合センター
Center for Integrated Research and Education of Natural hazards,Shizuoka University
[4] 関西大学社会安全学部
Faculty of Safety Science, Kansai University
[5] 静岡県立静岡高等学校
Shizuoka High School, Shizuoka Prefecture

Since the Tokai earthquake theory has been announced in 1976, disaster prevention and preparation to expected damages by the earthquake has become a serious social concern for both people and government, especially in the Shizuoka prefecture.However,it is very difficult to keep high consciousness of disaster prevention.We developed a “Shizo-ka bousai karuta” to learn a viewpoint of the disaster prevention and characteristics of the region, through collaboration of governments and citizens.

Keywords *: Shizo-ka bousai karuta , collaboration of governments and citizens , high consciousness of disaster prevention*

１．はじめに

1976 年，東海地震説の発表以降，静岡県では官民一体となり防災対策に取り組んできた．その中で市民一人一人の高い防災意識の維持は，国内外での大きな地震災害時には一時的に向上するが，非常に難しい課題であった．これまで静岡県作成の「グラグラかるた」[1)]をはじめ，清水町民生児童委員協議会作成の「清水町防災かるた」[2)]，焼津市立焼津東小学校作成の「黒潮っ子防災かるた」[3)]，岩手大学地域防災研究センター作成の「地震防災かるた」[4)]などにより全国的にも防災かるたが開発され，防災教育の推進及び防災意識の向上を図ってきた．

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災を受け，高まった防災意識と教訓を活かすために，行政主体ではなく，立場も専門性も違う多様な市民が自発的に考え，知識，経験を持ち寄り，防災市民意識を楽しく維持することへの試みとして「しぞ～か防災かるた」を協働で開発した．その事例を報告する．

２．「しぞ～か防災かるた」について

(1) 「しぞ～か防災かるた」とは

「しぞ～か防災かるた」は，静岡市を中心とする静岡県の文化，歴史，風土の特徴と防災心得を楽しく学ぶことを目的に 2011 年 4 月 1 日に「しぞ～か防災かるた委員会」を設置し，静岡市を中心に，静岡を愛する社会人や学生など多くの人々が関わって，愛する静岡の歴史や文化と東日本大震災の教訓をかるたにし，「大人も子どもも楽しく遊べる静岡の防災対策必需品」をキーワードに作成した．

「しぞ～か防災かるた」の「しぞ～か」は，本来「静岡」であるが，静岡県の方言から引用し，少しでも地域に馴染みがあるようなネーミングとした．

また，群馬県で小中学生のときから毎年かるた大会を経験し，群馬県をよく知り，そして郷土を愛するようにとの願いをもとに作られた「上毛かるた」から「郷土を愛する精神」と「競技かるたのルール」を参考にした．その際に，「百人一首」をはじめ，各地に広がる「上毛かるた」，「博多かるた」などの郷土かるたを実際に委員会メンバーで体験し議論を重ね，各地の郷土かるたの形式と防災かるたの要素を融合し，「上の句 5・7・5 に静岡市を中心とする静岡県の文化，歴史，風土の特徴」，「下の句７・７に防災心得」という短歌形式で開発した．

読札は，静岡県立静岡高等学校のオープンスクールで，２年生の地学の時間を活用し，ワークショップ形式で創作した作品，静岡市内の俳句の会「葉しょうがの会」の作品，静岡市番町市民活動センター1 周年・2 周年記念イベントの作品，2012 年 4 月から 6 月まで一般公募により集まった作品，しぞ～か防災かるた委員会メンバーによる作品を郷土史や静岡の歴史の詳しい委員会メンバーと防災などに詳しい委員会メンバーにより上の句と下の句を結びつける際にワークショップ形式にて創作した．

絵札は，イラストレータである「じょんじょん」こと高山みほ氏が同オープンスクールの授業時間において高校生の句に合ったイラストを作成したものを基本に作成した．

(2) 「しぞ～か防災かるた」の遊び方

- 競技の心がけ：勝敗にばかりこだわらずに，礼儀正しく正々堂々と競技し，楽しむ．
- 競技に用いる札：取札，読札とも 44 枚．
- チームは 3 人 1 組で構成．チームにて対戦し，読み手 1 名，審判員を各 1 名設ける．
- 競技開始前に取札を均等に 22 枚ずつ並べ，記憶時間を設ける．
- 読み手が空札である「金魚の形は静岡県」の札を 2 回読む．2 回目に読む「金魚の形は静岡県」が予令になり，3 回目に読む札から取り始める．
- 協議中は対戦相手の了解なしには取札の位置は変えることはできない．
- 取札が最後の 2 枚になったら，どちらの札が残っていても，横 30 センチ離して並べ，各チームの代表 1 名ずつで，この札を争い，1 枚と取った者が残りの 1 枚も取る．
- 採点の計算は，1 枚 1 点とし，点の多いチームが勝ちとなる．ただし，「やく札」としてほうさい（防災）の 4 枚で 10 点加算される．同点の場合は，空札である「よ」の取札を取っているチームが勝ちとなる．
- 競技上のトラブルを避けるために，審判の判定には逆らわない．

3．第1回しぞ～か防災かるた大会

2012 年 10 月に静岡市番町市民活動センターで第 1 回しぞ～か防災かるた大会を実施した．参加者は，小学生から 60 歳代までの約 41 名であった．小学生の部 5 チーム，大人の部 4 チームに分かれ競技を行った．参加者からは，大変楽しく勉強になったとの声を聞けた．また，体育館内で行ったため読み手の声が聞きづらいとの意見もあり今後の課題となった．

写真１　小学生の部の競技風景

写真２　大会終了後の記念写真

4．おわりに

今回は「地域の特徴」と「防災心得」を知ることを目的として開発した「しぞ～か防災かるた」を紹介したが，今回開発したかるたを地域に根付いた防災教育の一教材と活用してもらうため，静岡市教育委員会や各自主防災会などに働きかけ，「しぞ～か防災かるた」を普及していきたい．また，かるたを通して年齢を問わず「防災」と「地域の良さ」を更に身につけ，いざというときに行動を起こせる人材を育てていきたい．

図１　取札の一部

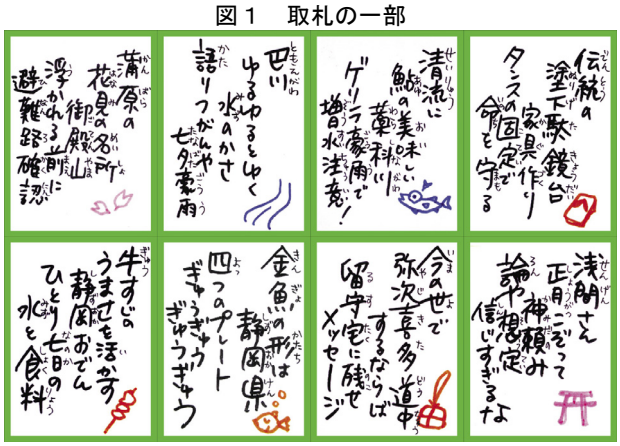

図２　読札の一部

図３　読札の裏面（解説集）の一部

参考文献

1)　静岡県地震総務部地震対策課：グラグラかるた，
http://www.e-quakes.pref.shizuoka.jp/shiraberu/hondana/jishin/01.html

2)　静岡県清水町福祉課：清水町防災かるた，
http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/fukushi/fukushi00033.html

3)　静岡県焼津市立焼津東小学校：黒潮っ子防災かるた

4)　山本英和，熊谷瞳：防災意識向上を目的とした防災かるたの制作，日本地球惑星科学連合 2013 年大会，G01-P01，2013．
http://www2.jpgu.org/meeting/2013/session/PDF/G-01/G01-P01.pdf

謝辞

本研究を実施するにあたり，読札の創作をご協力いただいた静岡市番町市民活動センター1 周年・2 周年イベントに参加された皆様，静岡県立静岡高等学校 2 年文系地学選択者，しぞ～か防災かるた委員会，しずおか防災検討会の皆様ら，多くの方々にご協力していただきました．また，取札のイラストを担当していただいた「じょんじょん」こと高山みほ氏にも多大なるご協力をいただきました．ここに記して，深く感謝申し上げます．